

# 「大切なこと」

所沢中学校  
二年 井瀧 莉子

夏休みに入ってから、各地で起きた大雨の影響による土砂災害をニュースで見かけることが多くなった。自分が想像していた以上に各地で土砂災害が多く起こっていることが分かった。そこで、土砂災害についてもっとくわしく調べてみたいと思い、調べてみることにした。

調べてみると、日本は国土面積の3分の4が山地で、傾斜が急な山が多く台風や地震が多いことから、土砂災害が発生しやすいと分かった。また、「砂防」という言葉に目にとまった。土砂災害広報センターによると「砂防」とは、土砂災害から私たちの暮らしや、命を守るために行われている様々な仕事のことだと分かった。また、土砂災害を起さないための工事を行うほか、土砂災害が起きてしまったときには、その復旧工事を行ったり、土砂災害が発生しやすい場所がないかを点検したり、土砂災害が発生していないか？を監視したりする仕事もあるそうだ。さらに、避難のしかたなどを人々に伝えたりすることも砂防の大切な仕事らしい。そして、「砂防」をローマ字表記にすると「S A B O」となり世界共通語として使われていることを知り、とても驚いた。

国土交通省のホームページによると、日本では土砂災害から国民を守るため「土砂災害防止法」という法律があることも分かった。この法律は、土砂災害のおそれのある区域についての危険の周知、避難のための整備、住宅等の新

規地抑制などの対策を推進するものらしいと分かった。私たち個人では、何かできることがないか調べてみたいと思えば、さらに調べてみることにした。政府広報オンラインによると、土砂災害から身を守るために知っておきたい3つのことがあげられていた。

一つ目は、住んでいる場所が、「土砂災害警戒区域」かどうかを確認する。二つ目は、雨が降り出したら、土砂災害警戒情報に注意する。三つ目は、警戒レベル4で全員避難場所に避難する。という3つのことだ。

私の住んでいる市でも、ハザードマップが作られていることを最近知った。市役所にハザードマップをもらいに行き、家族と一緒に危険な場所を確認してみることにした。住んでいても気づいていなかった場所を、家族と確認しあっている、とてもためになった。以前学校の総合の時間でも、クラスメイトと班で学校周辺の危険な所をさがしてマップにし、学年全体で共有する授業があったのを思い出した。みんなで出し合うことで、すぐ多くのことを知ることができた。学校で危険なことを出し合うことで、災害を意識できると思う。他にも学校では定期的に避難訓練も行っている。学校でそのような機会があるということ、家族と災害について話をする良い機会になっていると思う。

土砂災害がいつどこで何をしているときに起こってしまうか分からない。しかし、どこが土砂災害が起りやすいのかは、ハザードマップを見て前もって確認できることもあると思う。それを、家族や友達などの身近な人も共有することで土砂災害の被害を軽減することができることもあるのではないかと思った。土砂災害を自分には関係のないと思うよりも、身近なこととして意識しておくこと

が大切だと思う。

最近起きた台風の影響で、私の住んでいる市でも警戒レベルが3まで上がってしまった地域があるそうだ。私の家の周りでは、大きな被害がなかったが、そんなに遠くでもない場所で被害あったりしたので、その辺りに偶然通りかかったりした人が、被害にあってしまったということもあったのかもしれない。誰でも被害にあってしまう可能性があると思う。みなさんも、土砂災害について、家族や友達などの身近な人と一緒に考えてみてほしい。